



◆仲間たちが起ち上がった

.....94.2.17—94.8



新宿野宿労働者の闘いは、一九九四年二月十七日に起きた、東京都による強制撤去事件が契機で始まった。パブル崩壊から四年目に突入していたこの時期、新宿だけで四百人、都下には二千人の野宿労働者が生活していた。その中でも、都庁のお膝元に一列に並ぶダンボールハウスの存在は、棄民化の象徴であると同時に、東京都にとっては自らの無策を衆目にさらす「恥ずかしい事態」であったと言える。

「都はその前年の夏頃から、月に二回の大掛かりな強制撤去を繰り返し実施していたが、『夕方になるとまた元の状態に戻ってしまったため、根本的な解決策が必要』（一・二四裁判・都証人宮澤の供述調査）との考えから内部協議を重ねていた。まさに都による根本的な解決策の具体化こそ、二月十七日の強制排除事件であった。つまり追い出して元の状態に戻れないようにすれば、問題は解決する。都の浅薄な路上生活者対策の第一歩は、野宿労働者の荷物の一切を強奪し、ダンボールハウスを破壊、フェンスを張って路頭に叩き出す強権的な追い出し策だったのである。

一方、排除された労働者たちには、新宿区の福祉事務所が窓口となり実施された「緊急越冬対策事業」の宿泊所^Ⅱ大田寮（現在はなぎさ寮と改名）への入所が待ち受けていた。一方的な追い出しだけでは世間の非難を浴びると判断した東京都は、排除と収容策を一体のものとして打ち下ろし、「ホームレス保護」とうそぶく。だが路上にいる当事者にとっては勿論のこと、誰が見ても「一方的な追い出し」でしかなかったことは、当日の事態を伝えたマスコミ報道でさえ「保護なのか？ 追い出しなのか？」と疑問を呈する程であった。

この事態に対し、山谷で日雇・下層労働者の運動に関わり、とりわけパブル崩壊以降に顕在化してきた野宿労働者の問題に取り組んできた山谷労働者福祉会館・人民パトロール班のメンバーと、渋谷・原宿で、無権利状態に置かれた外国人労働者の支援・救援を続けてきた渋谷・原宿 生命と権利をかちとる会（略称・いのけん）のメンバーが直ちに取り組みを開始した。強制撤去の翌週から、都庁への抗議・追及行動に着手する一方で、新宿一帯の人民パトロール・話し込みを始めてゆく。

活動者たちは、新宿の野宿労働者たちが、自らの力で食うことと寝ることの問題を解決し、食料を分け合ったり、撤去に際して交替で見張りに付いて強奪を食い止めるなど、仲間同士が必死につながっている事実に出合う。そこから、活動者たちは野宿を強いられる労働者が主体となり、自らの未来を切り開いてゆく方途を模索していった。この

ことは、山谷などの運動にも新たな展望を与えることにもつながり、山谷と新宿を結ぶ反失業闘争実行委員会（準）が結成された。

当事者の要求にもとづき、当事者の利益になる運動を！ 闘いは、二月末からの連続した東京都弾劾行動として打ち抜かれ、「追いつけやめろ！」「奪った荷物を返せ！」の叫びは幾度となく都庁舎に響き渡った。そして三月十八日には、新宿・山谷の野宿労働者百名の結集で都庁への大衆行動が取り組まれ、福祉局へ乗り込み、保護課長との大衆団交を勝ち取る。同時に「高齢や疾病を抱えた労働者を支えて生活保護を勝ち取るうー」の呼びかけの下、新宿福祉への生活保護の集団申請行動が毎週取り組まれ、病気を抱えたまま路上から病院に通っていた多くの労働者を中心に、生活保護を勝ち取る行動が展開された。ところが闘いが前進する一方、五月末に野宿労働者同士の二件の連続した殺人事件が引き起こされてしまう。闘いを担ってきた者たちは、団結を呼び掛けてきた己れ自身が団結し得ず、統一した呼びかけが出来てこなかった事実を自己批判し、路上労働者集会において自らの欠点を明らかにしつつ、以後「仲間の利益に基づいて一致団結する」ことを労働者の前で約束した。

こうして、野宿労働者たちは自前の組織の結成を目指していく。「新宿仲間の会」と命名された当該野宿者団体は、六月二十八日に山谷労働者福祉会館で開催された『日雇全協反失業闘争報告討論集会』に参加する中で、全国の底辺下層労働者の闘いの息吹に触れた。「何だ、俺たちと同じ境遇の只中から闘いに立ち上がっている仲間こんなにいるのか」という衝撃的かつ新鮮な驚きは、運動に生き生きとした躍動感を与えていく。「仲間の会」は集会の当夜から突如として街頭カンパ活動を展開し始め、以後「新宿闘う仲間の会」へと改名し、連日の街頭カンパ活動が野宿労働者だけの力で精力的に取り組まれていった。運動を担ってきた活動者の全てが、感動を覚えたこの劇的な闘いの前進は、七月十二日の「全国で初めてのホームレスのデモ行進」へと結実し、百五十名の参加による対都庁デモが、梅雨明けの清々しい陽光を浴びて決行された。

悲惨さや貧しさからの救済ではなく、己れの力で未来を切り開いていく野宿労働者の闘いはこうして世に誕生した。八月十日、新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議（新宿連絡会）が旗揚げされたのである。

2月17日新宿のアオカンの仲間への叩き出し許さん！ 山谷から都と区に抗議の声をあげるぞ！

94・2

仲間たち！

去る17日の午後、新宿の仲間たちがやられた！ 東京都と新宿区の合同で、徹底した叩き出しと荷物の撤去、さらに西口地下道でアオカン（野宿）していた場所にフェンス・植木の設置が行われ、一方で一〇〇人以上の仲間を大田寮*へと収容した。

おれたちは、山谷から抗議の声を上げる。叩き出しに手をかけた、東京都と新宿区に責任を取らせていくつもりだ。

17日は、山谷からも新宿にかけつけたが、すでに荷物の撤去と叩き出しは終わってしまった。そして建設局の職員を先頭にして黙々と進められる植木の設置とフェンス張りの作業を監視した。植木の設置は武蔵野園芸という業者、そして都庁よりのフェンス張りとは花壇作りの工事は首都工業という業者だ。フェンスの内側には、4月までかけて本格的な工事を進めるということだ。

叩き出しは、かなりの数の職員と作業員を動員して行われたようだ。「ここからどけ！ 荷物をどかせ！」と頭ごなしに怒鳴りつけ、持ちきれない荷物や毛布は、ゴミ袋に入れてトラックで運びさった。人の荷物を奪い去って、「取りにこい」とはひどすぎる。

そして一方で、スバルビル前では新宿福祉による「街頭相談」が実施され、大田寮への収容が行われた。この日、大田寮に行ったのは118人。このうち65歳以上の仲間は生活保護で1カ月、

大田寮 現在は「なぎさ寮」。元は都の山谷越冬対策施設として大井寮から出発。埋立地周辺を有刺鉄線で囲ったプレハブ「収容所」。三つの寮が、都の依託を受けた民間法人によって管理されている。

65歳以下の仲間は生活保護ではない、その場しのぎの一時的な法外援護*で1週間の宿泊と振り分けた。大半の仲間は24日の朝には、また新宿に戻ってくる。65歳以上の仲間も、3月15日には何の保障もなく、大田寮から出される。

「相談所」には医者もいたが、診察の上で入院が必要とされた仲間はたったの4人、まったくおざなりの診察しかしていない。

しらみのついた仲間には、「明日来い」とほっぱり出している始末だった。

今回の叩き出し作戦は、東京都の企画審議室というところが音頭をとり、都の福祉局、建設局、そして区の福祉事務所がグルになって進めたものだ。さらに、新宿だけじゃなく23区の福祉事務所も合同で、都下でアオカンする仲間たちを叩き出した上で、大田寮に収容しようとしているのだ。

アオカンする場所を奪い、叩き出して、一時的に大田寮に収容し、仲間どうしのつながりを引き離し、バラバラにさせて、野垂れ死にを強いていく、これがこの作戦の狙いだ。

新宿のアオカンしている仲間は、厳しいながらも、新宿にいる理由があるはずだ。仲間とのつながり、食糧の調達、高田馬場の朝の手配を求め、現金や飯場で仕事をする、新宿の駅手配などなど。ダンボールの小屋から、仕事に行っていた仲間が、どうして大井などに行くことができるのだ！ たとえ一週間でもいなくなれば、その後の食糧が手に入らなくなるのだ。おれたちは、仲間の声すら聞こうとしない都と区に抗議の声を上げる。

新宿の地域住民が、「路上生活者をどうにかしろ」と、都に陳情していたことも知っていると思

法外援護 生活保護法外の民生援護。住所不定が法内にならない主な理由。法外とは労働者にとって、文句（不服申し立てなど）が一切、封じられているということ。これまで幾人もの仲間が寮内で死亡。

う。

仲間たち、今、胸を張ってこう言おうじゃないか。新宿駅も都庁も、おれたちの仲間が犠牲になりながら建てたものだ。この国の「繁栄」も、おれたちの犠牲の上に成り立っているのだ。

食うこと、寝ること、仕事につくことを保障しろ！

山谷のおれたちも、新宿・馬場の仲間と力を合せてやっていきたい。

仲間たち！ 力を合せて反撃していこう！

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

「アオカン」生活者の追い出しと闘うぞ！

94・2

渋谷・原宿・新宿などで「アオカン」生活を続けている先輩たち！ 行政と警察が、とんでもないことをし始めた。新宿区福祉と警視庁新宿署などは2月17日、新宿駅西口から都庁に向けて伸びている地下道で「アオカン」者の一斉追い出しをやったんだ。そのヤリクチはこうだ。

地下道は南北2本、それぞれ約300メートルほどの長さだが、そのうち1本では大きな植木鉢を次々に並べていって、先輩たちの寝床をふさいでしまった。もう1本では「整備工事のため」としながらフェンスを張り巡らせて、やはり先輩たちの居場所を囲い込んで入れないようにしてしまった。この工事というのも、どうやらただ植木鉢を並べていくだけのようだが、フェンスは4月まで設置したままにしておくらしい。

人パト班 山谷に建設された山谷労働者福祉会館に於て、「会館」の医療班と山谷争議団メンバーで出発した行動組織。

ヤツラはこの日、福祉職員や警察官、ガードマンら50人前後で追い出し作戦を実行してきたが、地下道から先輩たちを追いつくと同時に、半強制的に大井の宿泊所に連れていこうとした。新聞（朝日）報道では118人が大井へ入ったという。また、追い出しに際して、先輩たちの貴重な段ボールや服、雑貨や食料など生活に必要な所有物をトラック（2トン）6台で中野区の集積場に持ち去った。しかも、勝手に奪っていったクセに、あとになって「欲しい人は中野まで取りにこい」といつてきたんだ。

それでも身体の調子のよくない先輩や、高齢の先輩にとってはこんな寒い季節に「アオカン」するのもシンドいから、大井の施設で少しは身体を休められるかも知れないという期待もあっただろうと思う。でも大井の施設は、たったの1週間しか宿泊を認めないんだ（65歳以上の先輩には1カ月の宿泊が認められるらしい）！ つまり「越冬対策」なんていつているが、つまるところ「ここにいたらジャマなんだよ！」とばかり、一時的に眼の前から先輩たちを追いつてしまおう、ということらしい。

その証拠に、ある先輩は17日に福祉の職員から「何か困ったことがあったら、明日（18日）にでも福祉（新宿区）にきてください。髪も洗えますよ」なんて、優しい言葉かけられたが、翌日、福祉に行ってみると、「なんだ！ 汚い！ あっち行け！」と罵られたそう。17日にはテレビや新聞が来ていたから、調子の言いことをいったんだろう。また別の先輩は、警察官から大井の宿泊所の案内書を渡され、「これを持って福祉へ行けば、宿泊券がもらえる」と言われ、さっそく福祉へ行ったところ、「そんな紙切れじゃダメなんだ。警官が言ったって？ ニセ警官じゃな

いか」とバカにされたという。

いったい都や区は、福祉や警察は、「アオカン」生活者を眼の前から消してしまえば、問題は解決するとも思っているのか。仕事をしたくてもできない。アパートに入りたくても入れない。家族と暮らしたいができない事情がある……。いろんな事情のなかで、差別され、排除されてきた先輩たちも少なくないのに、世間は「汚い、臭い、だらしない、危ない……」などと罵るばかりだ、とある先輩が言っていた。カネ持ちばかりがもてはやされるこのクニで、ましてや不況のなか失業者も増えている。最近では外国人の「アオカン」者も見られるようになった。先輩たち！だからこそ「アオカン」して生きている先輩たちと、そうではない私たちとのあいだの垣根をとっ払わなきゃならないと思うんだ。先輩たちと私たちは、いつも同じ空気を吸って、この社会に生きていくんだ。私たちが共に悩み、苦しみながら、あるいは楽しく笑いながら手を取り合って生きていくことを邪魔するヤツらにやりかえしたいと思うんだ！

情報では3月いっぱい「アオカン」生活者の一斉追い出しをやってしまおうという計画が進んでいるらしい。その影響か、「救世軍」の炊き出しにも上からストップがかかったようだ。新宿ではこの冬だけで40―30人(？)の凍死者があったとも聞く。

先輩たち！「アオカン」生活をともにしていない私たちが、偉そうにいいることじゃないだろうけど、ともにこのクニで、この社会で生きている以上、私たちは先輩たちといっしょに、ヤツらにやり返す権利と義務があると思っっている。

今回の行政と警察のやり方に、みんなの力でやり返そう。先輩たちと私たちの思いを、ヤツららにぶつけようじゃないか！そしてヤツらが中野に盗んでいった所有物を取り返し、ともに生きる権利をかちとろう。

先輩たちと、私たちに何ができるか、じっくり話し合って、立ち上がろう。

「追い出し」と闘う合同会議に集まろう!!

渋谷・原宿 生命と権利をかちとる会 (いのけん)

たった2週間の宿泊で、そのあとはどうするんだ！
食うこと、寝ることを保障しろ」と3月4日新宿福祉に要求書を叩きつけたぞ

84 3

おれたちは新宿の仲間と共に、東京都による「アオカン労働者の叩き出し作戦」に反対する行動をたたかっている。

3月4日には、新宿でアオカンする仲間50人と一緒に新宿区福祉事務所と、都庁におしかけ、21、25日に続く、第三弾のたたかいをやりきったぞ！

「荷物や寝場所を奪ったうえ、たった2週間だけ大田寮にプチ込んで、あとは知らんぷりとはどういうことだ！」「今後のオレ達の生活を保障しろ」「一時しのぎのやり方じゃなく、キチンとした生活保護をよこせ！」大田寮から3日の日に出された仲間を先頭に、福祉事務所の保護課課長武山にオレ達の声を叩きつけた。しかし、一時しのぎの一週間の収容（法外）を自分で決めた

ほざく、この武山は「福祉は精一杯のことをやっている」「皆さんが仕事につけないのは自分で努力していないからだ」と、とんでもない発言をした。病院に行きたくても「まだ若いから自分でなんとかしろ」と放り出す。アオカンしながら通院させる。あぐくの果てには東京都とグルになって仲間の荷物を奪い、寝場所を奪い、大田寮にプチ込む。なにが精一杯のことをやってるだ！おまえらがやっていることは、仲間を次々と野垂れ死なしていることじゃないか！オレ達は、武山を徹底して弾劾しぬき、要求書を叩きつけた。

午後からは先週に引き続き、荷物を奪い、寝場所を奪った責任者である東京都建設局に押しかけた。が、やつらは、ドアの鍵を閉め、さらにカンヌキをかけて、職員総出でドアの前にピケをはり、おれ達をフロアーに入れさせないばかりか、応答すらしないという全く許せない行動に出た。「荷物を返せー」という、オレ達の正当な要求にすら応じようもしないとは何事だ。盗人たけだけしいとはこのことだ。オレ達は荷物を奪った建設局、そしてそれを指示した東京都知事鈴木に対する怒りの抗議行動を、都庁内をねり歩き叩きつけ、荷物の保管場所まで押しかけ、仲間の荷物を奪還したぞ！

4日の行動には、50人もの新宿の仲間が参加して、一日のたたかいをやり抜いた。これは本当に大きな力だ。新宿福祉事務所の課長・武山は、「代表5人とだけ話す」と、密室でのボス交渉をやるうとしたが、「ここにいる全員が代表だー」とつめより、仲間の声で圧倒し、2時間立たせたまま、抗議を叩きつけた。

2月17日の「叩き出し作戦」以後の、抗議行動は、新聞でも報道され、社会的にも注目されて

いる。仲間どうしで声をかけ合って、さらに続けて「生きぬくための闘い」をやっている！

2月17日の西口地下道からの「叩き出し作戦」と、その後も続けられるダンボールの撤去、荷物の強奪は、新宿からアオカンの仲間を叩き出そうという目的でやられている。ただ、一方的に追い出すと、世間からも非難されるので、「保護作戦」と称して、大田寮への収容を行っているんだ。だけど、たった2週間の宿泊で、「仕事がない、食うものがない、寝場所がない」というおれたちの切実な命の問題が解決できるわけではない。

新宿福祉は、恩きせがましく「健康を回復してもらおうと、2週間宿泊にいつてもらった」と言っているが、その後は、生きるための保障もしないで、路上に放り出し、またアオカンに叩き込んでいるのだ。3月3日には、90人近い仲間が大田寮から出された。新宿福祉は、仲間に戻りのキップを渡しただけで、毛布もダンボールもメシも、何一つ渡そうともしないし、その後の生活について心配すらしていない。

これが東京都と新宿福祉がグルになってやった「環境整備と人命保護作戦」の実態だ。仲間とのつながりを切り離し、バラバラにさせて、一人一人を孤立させて、野垂れ死にを強制していく。都下のアオカンの仲間を「処分」しようという恐ろしいことを、都が率先してやろうとしているのだ。

新宿にその第一弾が打ち下ろされた。

これを許しておけば、新宿にいらなくなるだけじゃなくて、都下のアオカンの仲間全部に、同じような「叩き出し」がかけられてしまうだろう。そして、仲間の集まる場所、寝る所がこと

ごとく奪い去られてしまう。

今、必要なのは「叩き出し」にさらされている仲間自身が、「おれたちの声を聞け、おれたちの生活を保障しろ」と声を上げていくことだ。「浮浪者」なんていうとんでもない言葉でおれたちを切り捨てようとする奴らに、「おれたちは労働者だ」と胸を張って言っていこう。

そして、バラバラにされようとしている仲間どうしのつながりを、もつともつと強めていこう。

3月10日の木曜日、夜9時から、新宿での人民パトロールをやるぞ！ 人パトと一緒にやろう！ 仲間のところを回って、声をかけ合って、つながりを強めていこう！ 西口ロータリーに集まろう！

山谷労働者会館・人民パトロール班

先週は新宿と山谷の仲間90人で都庁におしかけたぞ

84 3

3月18日、おれたちは、対都行動の第四弾の闘いをやった。新宿と山谷の仲間が力をあわせて、90人の仲間で大挙して都庁に乗り込み、朝から夕方までの一日の行動をやりきったぞ！

2月17日に東京都と新宿区が合同でやった、新宿のアオカンの仲間への「一斉叩き出し」作戦。同時に「人命保護」だとぬかしてたった2週間だけ大田寮にブチこんだ「緊急越冬対策」*。これらが、新宿の仲間を追い出すためにだけやられたことは、すでに明らかになっている。

だが、新宿のアオカンの仲間を叩き出し、バラバラにさせてつながりを断ち、一人一人を野垂

人民パトロール 野垂れ死の淵をさまよわれる野宿の仲間に向けて、仲間自身がパトロールして廻る行動。70年代の寄せ場の運動体が名乗った名称を引きついでいる。

れ死にさせていこうとする都の狙いは、もろくも、崩れ去った。

18日は、この一カ月の間、連続して闘ってきた新宿の仲間と、山谷の仲間が力を合せて都庁に乗り込んだんだ。

朝9時半、駅に集合した90人の仲間は、「荷物かえせ」とかけ声をかけながら、都庁へと向かった。「新宿からの追い出しをやめろ！ 荷物をかえせ！ 仕事をよこせ！」と書いたダンボール板を手に、ゆつくりと都庁に向かった。

午前中に抗議に押しかけたのは、都の福祉局だ。福祉局は、都の企画審議室や建設局と手を組んで、叩き出しと大田寮への収容を率先してやってきた所だ。「福祉」の看板を掲げて、その実は野垂れ死にを目論む連中に、抗議の声を叩きつけたぞ！

この一カ月の間、再三福祉局には抗議文をもって押しかけてきたんだ。そのたびに福祉部長、保護課長ともにトンズラを決めこみ、門前払いをしてきたのが福祉局だ。さらに3月15日の「越冬対策終了」による大田寮の閉鎖以後は、「勝手にどこかへ行ってくれ」と言わんばかりで、具体的な施策をやろうともしないのだ。

突然の押しかけにビックリした福祉局の連中は、門前払いをすることもできず、仲間は全員フロアーの中に陣どった。叩き出しと一時しのぎの大田寮への収容を先頭でやった保護課長・木原は、おれたちの前に姿すらあらわさず、一時間半の間、都庁内で逃げ隠れをしていた。だが、おれたちはねばり強く頑張り、やっと木原をおれたちの前に引きずり出すことができた。

「緊急越冬対策をやって、新宿のアオカンの仲間の生活のどこが改善されたのか？ 荷物を取ら

緊急越冬対策 94年より「路上生活者対策都区検討会」の開始と同期、福祉先行で——
“緊急”に実施された施策——大田寮への2週間収容。

れ、寝場所を奪われて、行き場がなくなっただけじゃないのか？」と追及すると、ダンマリを決めこんで、しゃべろうともしない。みんなで抗議の声を叩きつけ、抗議文を読み上げ、弾劾してきたぞ！

昼は、都庁前のひろばで、ダンボールを敷き広げ、みんなでメシを食いながら交流し、午後の建設局への「荷物かえせ」行動へと向かった。山谷の仲間はセンター前「共同炊事」の準備に戻り、荷物を強奪した第三建設事務所へと抗議団をおくった。建設局は、前回と同様に、扉にカギをかけ、門前払いの構えだ。フロアーに入れさせないばかりか、話すら聞こうとしないとは何ごとだ！

おれたちは、荷物を奪った建設局、その責任者＝道路管理部長に対し、怒りの抗議行動を都庁内をねり歩きながら叩きつけ、荷物の保管場所まで押しかけ、仲間の荷物を奪還した。さらに「18日までの保管期限」を延長させたぞ！ 一つ一つ成果は勝ちとられている。都下のアオカンの仲間、今は仕事に行けている現役の仲間と力をあわせて頑張ろう！

仲間たち！

3月15日、その「越冬対策」が終了し、大田区に建てられていた「大田寮」が閉鎖された。都は都下1500人のアオカンの仲間に対するその後の政策を打ち出そうとしてもしていない。冗談じゃない。冬が終わったらおれたちの生活は良くなるのか。仕事がない、食うものがない、寝場所がない、こんなおれたちの切実な要求に、都は正面から答えるべきなんだ。

センター前「共同炊事」 山谷の城北福祉センター前の路上で取り組まれた炊き出し活動。野宿労働者自らが、自らの手で飯の問題を解決するための取り組み。

今、都の企画審議室というところが音頭をとって、都内のアオカンの仲間の「実態調査」というものをやろうという動きがある。「都区検討会」*という仲間への叩き出し作戦を計画する会議も予定されている。

だが、新宿の件を見てもわかるように、実態を知ってどうするのかと言えば、結局、追い出し、叩き出しをして、一人一人をバラバラにさせて、病院や施設、あるいは路上で野垂れ死にをさせていくことしか考えてはいない。

こんな目的をもった「実態調査」なんて叩き潰していくしかない。

都下の仲間が力を合せて、団結すれば、都の狙いを崩していくことができる。新宿での仲間たちの闘いは、このことを証明していると思う。

「越冬対策が終了したから、後は何もやらない」などというのは、絶対に許せない！

仲間たち！「おれたちの声を聞け」と行政に詰めより、殺人行政に怒りの声を上げていこう！共に闘おう！

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

4・20福祉事務所長会を山谷、新宿150名でぶつつぶしたッ

新宿の仲間たち！

またもや大きな成果をかちとったぞ！

きのう、ひらかれる予定だった、福祉事務所長会議をおれ達は、おれ達の力でついにぶつつぶしたんだ。

新宿からは、約40名の仲間が、新たな2・17を準備しようとするこの福祉事務所長会議に対し、「二度と叩き出しをさせるか!」という思いで、九段の区政会館に向かった。

一方、山谷からも、新宿の仲間の闘いを支え、アオカン労働者の新たな叩き出しを許さんと、大型バスでアオカンの仲間約90名が九段に集結した。

福祉事務所長会の幹事会は午後1時半、全体会が、2時から開催される予定だった。ところが、昼すぎ、おれ達が大挙、区政会館前に現われると区政会館の本館の入口は閉じられ、シャッターは、全て下ろされ、なんと、入口の前には「本日の福祉事務所長会議は中止になりました」との看板が出ているじゃないか。会館の周辺にたむろした、警備員や、ポリ公どもが、おれ達にらみをきかせるが、奴らの敗北感は明白だ。

「おれ達は、勝利した!」

「福祉事務所会議をぶつつぶしたぞ!」

おれ達は、区政会館前にある公園で、勝利集会をぶちぬいた。

新宿、山谷でのこの間のたたかいを報告しあい、新宿―山谷を貫いて、今後再び画策されるだろう「都区検討会」「実態調査」をこの仲間の力でつぶしてやろうと確認しあったぞ!

おれ達は「都区検討会」粉碎の第一弾のたたかいに勝利したんだ。

「都区検討会」は、この間のピラで明らかにしてきたように、東京都と、二三区の福祉事務所が

共同で、当事者の声もきかずに、おれ達アカン労働者を「どうにかしよう」と、画策する会議だ。労働政策や、福祉政策の失敗など、自分らの責任を棚にあげ、「大都市問題」だとか勝手な「問題」をデッチ上げ、おれ達を叩き出し、分散させ、どう人目につかずにおれ達を「処分」できるかを検討するということとんでもない会議だ。

この「都区検討会」の再開と、協力を各区にお願いする場としてあった、昨日の福祉事務所長会議がぶつつぶされた。「都区検討会」は、各区の合意を得ることなく、今月中の再開はほぼ、不可能になったんだ。

福祉事務所長会の中止は、新宿福祉が、おれ達が区政会館に抗議に行くことを知って、あわて、福祉事務所長会の幹事に「混乱が予想されるから中止してくれないか」と泣きついて中止にさせたらしい。2月17日行なった、叩き出しとセットになった「法外（たつた）2週間の大田寮への収容（援護）」の実態を、当事者の声として、暴露されることを恐れた新宿福祉があわてて中止にさせたのだ。他の福祉事務所は、新宿福祉がやった事をまだ知らされていない。当事者の声を聞けば、どれだけひどいことをしたのかは、誰にでも明らかだ。新宿福祉はそれをひた隠そうとヤッキなんだ。

だが、おれ達は、2月17日、新宿福祉が行なった行為を決して忘れはしない。叩き出し、一時しのぎの収容をし、その後、何の保障もせずに放り出されたことを決して忘れはしない。

東京都が、新宿福祉が、2・17を謝罪し、叩き出しのための「都区検討会」を解散するまで、おれ達は、東京都と、新宿福祉に対するたたかいを続けるだろう。

居宅保護 身体の悪い野宿者に対し、行政は医療保護（入院・通院）は出しても居宅保護は出さない。故に、路上から通院という事態がひん発、これでは身体が良くなる道理がない。

新宿福祉は、窮地に立っている。おれ達は、毎週、福祉行動を行なって、新宿福祉に圧力をかけている。おれ達の力で、新宿福祉に最後的に悲鳴をあげさせよう。

仲間たち！ 明日（22日）も、新宿福祉行動を行なうぞ。この間、多くの病をかかえた仲間と一緒に、福祉に押しかけ、生活保護を具体的にちかちかしている。奴らは施設がないとかを理由に、居宅保護^{*}には、消極的だ。その結果、多くの仲間がアオカンしながら通院なんてひどい対応をされている。が、新宿区内でも10カ所以上のドヤがある。そこで保護を受け、通院している仲間も多い。入院するほどでもない仲間は、ドヤからの通院を是非ちかちかとう。病を抱えた仲間を支え、共に福祉行動に！ 明日朝9時半「新宿の目」^{*} 結集だ。

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

新たな叩き出しをたくらむ「都区検討会」実態調査を許すな！ 五・一新宿労働者集会

仲間たち！

2月17日、東京都によってうちおろされた「叩き出し作戦」以降、おれ達、新宿でアオカン（野宿）する労働者は本格的にたたかいて立ち上がった。新宿でアオカンする労働者全員の怒りを体現し、新宿でアオカンする労働者全員の利益のために、おれ達は立ち上がったんだ。

東京都はおれ達を「浮浪者」「ホームレス」「路上生活者」などと、働く意欲のない者と、勝手

84.5.1

新宿の目 新宿西口地下・スバルビルにはめ込まれた立派なレリーフ状造形。現在、向い側のインフォメーション前にはダンボールハウスに描かれた「左目」がある。

にレッテルを張り、おれ達の人権すら踏みにじり、叩きだし、おれ達が寝ていた場所にフェンスを張った。「人命尊重」で保護しますよといっても、正式な生活保護を適用したのは、ほんのわずかで、ほとんどの仲間が「法律外」の人間あつかいにされ、たった2週間だけの「収容」でごまかされた。

だが、おれ達は東京都が言うように、働く意欲がない者なのか？

いや、それは、違う。

おれ達は、この国の「高度経済成長」なるものを支え、一生懸命働いて来た労働者だ。こき使われながらも、我慢を重ね、安い賃金で耐えぬいてきた労働者だ。

確かに今は、アオカンをしている。が、好きでアオカンをしている訳じゃない。仕事に行きたくとも、仕事が終わったくないからだ。年をとり、からだをこわして重い仕事につけないからだ。仕事が出来なくなっても福祉が面倒を見てくれないからだ。

こんな、おれ達の事情すら分かつともせず、東京都はおれ達を叩き出しさえすればいいと本気で思っている。

東京都にとって恥ずかしがっていることは、何も道路にダンボールハウスが立っていることだけじゃない。自分らが、東京の復興のために集めた労働者に対して、その後の就労保障や、生活保障をなんら一つもやってこなかった証しとして、おれ達がいることだ。いなくなった労働者を使いすていくことが目の当たりにされることで、労働政策や、福祉政策の破綻が明らかになることを恐れているのだ。

だから、東京都は、おれ達を「浮浪者」だとか「路上生活者」だとか、働く意欲のない者と規定し、まともな政策を行おうとしないのだ。

「今まで一生懸命働いて、都市づくりに貢献してきた労働者をいらなくなったら、ゴミのように捨てるのは、何たる事だ」

「労働者の使い捨て」そんな批判をかわすために、東京都は、おれ達が労働者だつてことをひた隠しにし、働く意欲のない「浮浪者」「路上生活者」だと、勝手に決めつけているのだ。

勝手に決めつけられてたまるものか。勝手に隠されてたまるか。胸をはって言おう、おれ達は、新宿でアオカンする労働者なのだ。

おれ達は、労働者として、いままでこき使われ、使い捨てられ、やられてきた、怒りをバネに立ち上がった。2月、3月と連続して、企画審議室、福祉局、建設局、新宿福祉に攻めのぼる対都行動をやり抜き、その力をもって、4・1集会を150名の結集で成功させ、4月、連続新宿福祉行動で新宿福祉に圧力をかけ、4月20日、新たな叩き出しを準備するために開かれる予定だった「福祉事務所長会議」を、山谷の仲間と結びつきながら、中止に追い込んだ。

おれ達がたたかいて立ち上がったことで、東京都と新宿区は、大あわてだ。おれ達が立ち上がることで、東京都や新宿区の目論見がどんどん暴き出された。人権を無視した叩き出し、強盗まがいの荷物の撤去、おれ達を法律外の人間あつかいにしたたつた2週間の収容、アオカンさせながら通院させる新宿福祉の日常的な実態。なんの根本的な施策すら出そうともせず、おれ達を

「環境を悪くする存在」「きたない存在」「集団でいると、なにをしでかすか分からない者達」と、「大都市における治安問題」として、勝手に規定し、暴力的に叩き出し、分散させ、欺瞞的に一時しのぎの援護でごまかし、野垂れ死にを強制しようとする東京都の目論見が、おれ達のたたかいの中、満天下に明らかになったのだ。

これは、東京都にとって予想外の事態だった。それだけ、おれ達アオカン労働者をなめていた証拠だ。今までやられっぱなしだった怒りの蓄積が、どこに向かつて行くのかすら東京都は予測しえなかったのだ。

おれ達、アオカン労働者をたたかいたちあがらせたことが、東京都と新宿区にとって最大の失敗だった。

今、やつらの矛盾が、都と区のあいだで起こりはじめている。4・20の福祉事務所長会議が中止になったのもその現われだ。東京都と新宿区の密約で進められて来た、2・17の計画を他の福祉事務所は事前に知らされていなかっただけに、これだけ都の対応が社会問題化してしまった今となって、安易に東京都と新宿区がやったことに賛同出来ない。もし、賛同したら自らの区でも同じような事態が引き起こされないとも限らないと、戦々恐々なのだ。新宿区としても、自分らがやったことが、これ以上暴露されたら立場がない。おれ達のたたかいの炎に油を注ぐだけだと、これまた、戦々恐々している。

東京都と二三区の協議が始まり、お互いに協力関係を作らなければ実施出来ない「叩き出し計

画」であるのに、今、東京都と、各区福祉事務所は自分の所にツケがまわってこないようにと、責任のなすりあい必死だ。「叩き出し計画」の会議である「都区検討会」も、2月に開かれて以降、再開のめどすらたっていない。

当事者抜きで、秘密裏に計画した、叩き出すための施策だからこそ、東京都にとってなんの正当性もない。おれ達当事者が立ち上がれば、こんな計画はぶちやぶることが出来るんだ。

今、奴等はおれ達のたたかいが、静まるのを待っているだけだ。静まるのを待ってから、もう一度しうこりもなく叩き出しを繰り返そうとしている。そのために、おれ達の団結を破壊しようというんな手を使って分断をはかろうとしてくる。

東京都の企画審議会の調査部がやろうとしている「路上生活者実態調査」もその一環だ。警察の権力を盾にして、おれ達、アオカンをしている労働者、一人一人を調べあげ、顔写真を撮り、指紋を取り、なにかあった場合すかさず、警察が弾圧できるようにする名簿を作ることが、その目的だ。「奴等は、ままとると、何をしでかすか分からない」こんな勝手な、偏見に満ちたキャンペーンをはりめぐらせ、「実態調査」でおれ達の団結を破壊しようとたくらんでいる。また、東京都が表だってやれないことを、民間のガードマンや、駅員にやらせるなど、陰湿な叩き出しを繰り返し、おれ達にいやがらせをかけてくる。南側通路のフェンス内の工事が連休明けに終了しても、その場所には、おれ達を寝させないために、シャッターを作るなど、地下道の構造を変えて行くこともやりはじめた。出来るだけ「社会問題」にさせず、日常的な弾圧と、いやがらせで、おれ達をまいらせようとしているんだ。

こういう悪辣な手段をつかいながら、つぎの「作戦」をねるため、連休あけに、中止になった福祉事務所長会議を秘密裏にやり、都と区の矛盾を調整し、「都区検討会」の再開へとこじつけたと東京都は画策している。

が、そんなうまく事は進むか！

だが、油断は禁物だ。おれ達がつくってきた、団結が、たたかいが、崩れたとき、奴等は一気にやってくる。おれ達は、おれ達がつくってきた地平を維持しながら、奴等と立ち向かわなければならぬ。毎週木曜日の労働者パトロールで仲間内の団結をより深くし、金曜日のさまざまな取り組みを日常的な活動にしながら、「都区検討会」の再開を許さず、「実態調査」の動きをぶつぶしながら、新宿で生き抜くおれ達の力で、おれ達の問題を解決していこう。

山谷では、新宿の仲間のたたかいに続けとばかりに、センター（東京都の山谷対策の法外援護機関）をうったたたかいが開始された。センター前で、アオカンの仲間が共同して炊き出しをつくり、センター前で、仲間同士一緒にアオカンしながら、センターや、おれ達のたたかいを妨害するマンモス交番、暴力グループに対するたたかいを連日くりひろげている。上野でも、台東福祉にたいする取り組みが開始された。今まで黙っていた、アオカンの仲間が、新宿の仲間の立ち上がりをきっかけに、怒りの声をあげはじめたんだ。東京だけじゃない。大阪の釜が崎でも、名古屋の笹島でも、横浜の寿や、川崎でも、福岡でも、アオカンの仲間は、なにもしない行政に対してたたかいにたちあがっている。

上野 東北から首都への排出口・上野は歴史的にも、幾多の野宿者の集中地域としてあった。90年代初期には、成田からの排出口（京成線）として、イラン人もあふれていた。





おれ達新宿でアオカンする労働者のたたかいは、全国の仲間を鼓舞しているんだ。

連休中は、仕事は全くなく、行政もしまり、おれ達にとって本当に厳しい時期に入る。こんな時期だからこそおれ達の横のつながり、団結が大事になって来る。今日、ここで、出会った一人の仲間が、つながっていけば、本当に大きな力だ。

行政に頼ってられないのだから、おれ達は自前の団結で、仲間うちの力で、いろんな問題を解決していこうじゃないか。

例えば、体の弱い仲間や、高齢の先輩がひとりぼっちでいたら、みんなで声をかけあい、励まし、知り合いになり、一人で飯を探しにいけないのなら、みんなで飯を探しにいくとか、これはやばいと思う仲間が苦しんでいたら救急車を呼んで、一緒に病院までいくとか、みんなで支えあい、横のつながりをつくって、この厳しい連休中を乗り切ろう。

今日は労働者の日、メーデーでもある。おれ達アオカン労働者も、これを機により一層団結し、敵に労働者魂を見せつけてやるような、そんなたたかいを、今後つくっていきこうじゃないか！
全国の仲間と結びついてたたかおう！

新宿アオカン者の大団結を！

84・6

新宿で生き抜く、すべての仲間たち！

去る5月下旬、西口地下でアオカンする2人の仲間が相次いで殺されるという悲しい事件があった。警察はこれまでに、うち1件の「犯人」として、やはり西口地下でアオカンしていた仲間3人を「殺人」容疑で逮捕している。また警察発表に基づく報道によれば、逮捕された3人のうち2人（Aさん、Bさん）は別の1件についても「犯行を認めている」とされる。さらに、警察は「共犯」として別の1人を指名手配した、との情報もある。報道によればAさん、Bさんはいずれも、「被害者が」態度が大きく、仲間のラジカセを盗んだ」「人のモノを盗むので殺した」などと、殺した理由を供述しているという。

仲間たち！「いのけん」は悔しくて悲しくて、たまらない。なぜなら、逮捕されたAさん、Bさんはこのかん、オレたち支援とともに、行政の追い出しと闘ってきた仲間だった。そしてオレたちは新宿でアオカンする仲間が生きていく上で、マグロやモガキ、カラス、暴力や酒、アンパンなどの問題が「内部問題」として存在していることを知り、どうやっていけばそれ乗り越えることができるのか、について悩んでいた最中の事件だったからだ。

オレたちは、殺された2人が「日頃から酒グセや手クセが悪く、他人に迷惑ばかりかけていた」「だから殺されてよかった」「オレがやっていたかも」などという話を仲間たちから聞いている。また一方で、「殺した」とされるAさん、Bさんらに対しても、「あーゆー連中は捕まってもよかつ

た」などという話も聞いている。それぞれに事情があるだろうし、24時間毎日毎日、仲間たちと同じようにアオカンしているわけではないオレたちには、しょせんは分かりようのないことなのかも知れない。だけど、そんな単純な話じゃ、ないハズだ。2人のアオカン者の生命を失い、少なくとも3人のアオカン者が国家の監獄のなかに囚われているという、辛い現実があるんだ。

オレたちは2月17日の行政による「叩き出し」に抗議して、新宿にやってきた。初めて出会った先輩たちに多くのことを学びながら、「アオカン」と「支援」という立場の違いはありながらも、行政や地元住民（商店街）、警察の「追い出し」を許さず、「アオカンは生きる権利だ！」と叫びながらいつしよになって闘ってきた。それはなによりも、新宿のアオカン者がお互いにガツチリと腕を組み、「団結」していくことなくしてはあり得なかった。オレたちは「合同会議」や「共同人バト（人民バトロール）」「共同炊き出し」「共同ビラまき」などを通して、「団結力」を培ってきた。また、山谷からの支援とともに都庁や新宿区役所への押しかけにも参加し、仲間の声を叩きつけてきた。さらに国会議員を新宿に呼んで、仲間たちの声をつきつけてきた。

しかし不幸な事件が起きた今、振り返ってみれば、オレたちの「団結」は「絵にかいたモチ」のように、薄っぺらなモノでしかなかったのではないかと悲しくなってくる。そうだ、仲間たちは行政や警察に対する抗議と同時に、アオカンする者どうしがどうやら平等に、力を合わせ助け合って生きていけるか、をなにより真剣に悩ま考えてきたんだ。モガキや暴力、酒など「内部問題」を乗り越えるために、支援とすべてのアオカン者がまったく新しい人間関係でつなが

「合同会議」「いのけん」が新宿で仲間呼びかけた「追い出しと闘う（支援と労働者の）合同会議」のこと。その後「寄り合い」となって定着してゆく。

って、平等の立場で生きていけることをなにより望んでいたハズだ。だが、連日のように続く行政の追い出し、警察の見回り、そして通行人や一般人の白い眼におびえる仲間たちは、そんなキレイごとで済まないことを誰よりも知っていた。「仲間のモノを奪うようなヤツは自分たちでやっちまうしかない」という気持ちを持ったとしても、なにも不思議はない。そしてまた、世間の冷たい仕打ちに耐えるには、酒やアンパン、あるいはモガキや暴力によってモヤモヤを発散するしかない、と思ってしまうことも分らないわけではないんだ。

だけど、仲間たち！ アオカンという生き様を通して、あるいは仲間たちといっしょに闘うことを通して、オレたちが感じ学んできたことはいったい何だったのだろう。それは、「人の痛みが誰よりも分かるオレたちだからこそ、弱い立場にあるすべての仲間たちとともに手を取り合い、ガッチリとつながって、巨大で強い連中と闘い、仲間の生命を仲間の力で守り生き抜いていこう」ということではなかっただろうか。

オレたちがめざしている関係は、オレたちを社会から排除して「アオカン」を強いてきた全ての関係とは、まったく逆の人間関係だ。それは会社や学校、家族、あるいはヤクザ社会のなかにあるタテの関係をブチ壊し、女も男も、障害者も健常者も、年齢や国籍を超えて、平等にヨコの関係でつながっていくということだ。

だとすれば、殺された2人に対してもオレたちは、優しく声を掛け合い、新しい人間関係のなかに2人を仲間入りさせて、2人の抱えているいろいろな問題を改めさせることができたかも知れない。だとすれば、2人を殺したとされる人たちに對してもオレたちは、力強く声を掛け合い、

新しい人間関係のなかに仲間入りさせて、「殺人犯」にはさせないことができたかも知れないんだ。人は生命があるかぎり、そして新しい人間関係をつくり直すことができる限り、どうにだって変わることができる！ 昨日までやっかいな連中だったとしても、今日から名実ともに「仲間」になることができる！ そして社会からツマはじきにされ、一般市民からツバを吐かれて生きてきたアオカン者だからこそ、オレたちだからこそ、誰よりもそのことをよく知っているハズだ！

仲間たち！「いのけん」や山谷など支援では、今回の事件を大きな教訓にして、これまで以上の仲間の、本当の「団結」を作り出していく決意をした。アオカンする仲間たちも大きな決意をしてほしい。もう一度、ここ新宿で、オレたちはやり直そうじゃないか！

そして今回の事件を口実に、警察や行政は一段と「追い出し」を強めてくる可能性がある。既に7日の夜にはポリ公や行政の連中が、「出ていけ」と触れ回っている。また警察は今回の事件について、「(山谷や『いのけん』など)支援が新宿に入り込んで組織拡大を狙っている。そのなかで縄張り争いが起きた」などとマスコミにウソぶいている。

さらに「東京スポーツ」(書・山元泰生)というクソ新聞はこんなことを書きやがった。「…朝から酒を飲んでいる者、チンポを出したまま寝ている者、何か大声でわめいている者…これほどすさんでいれば、また第3、第4のケンカ殺人が起ること間違いない」そしてこの「東スポ」は代々木公園や上野公園のイラン人のように「締め出せ」と言い放っているんだ。

仲間たち！ 事件を本当の意味で「解決」し、乗り越えることのできるのはほかならぬオレだ

ちでしかない。警察や行政の追い出しを絶対許さず、アオカンという「生きる権利」をさらに「社会との闘い」なんだ、ととらえ直して、「団結」固く突き進もう！そして「東スポ」野郎のような連中には、キツチリとオトシマエをつけてもらおうじゃないか！殺された2人のアオカン「仲間」を弔い、逮捕されているアオカン「仲間」を支えていくことで、オレたちは世界中で一番あつたかくてガツチリした関係を作り出そう！本当の闘いは、いま、始まったんだ！

新宿アオカン者大団結集会（仮）に集まろう

殺された仲間を弔い、逮捕された仲間を支えていくために！

「いのけん」と山谷人パト班は団結して闘うぞ！

渋谷・原宿 生命と権利をかちとる会

いざ立たん！ 新宿アオカンの仲間よ

94・6

6月26日、全国より我々の仲間たちが山谷の労働者福祉会館に集結し、団結と闘争を誓いあった。我々新宿のアオカンも人パト班の支援を受け8名が参加した。それにより新宿仲間の会を結成した。

仲間一人でも多くこの会に参加して東京都・新宿区と闘って行こうではないか。是非来て欲しい。多ければ多いほど効果があるのだ。

来る7月12日、新宿一日行動には全員で参加しよう。

新宿闘う仲間の会

ついにやった！ 全国で初めて、

野宿労働者自身の闘う会——新宿闘う仲間の会が6/24結成された

94・6

新宿の仲間たち！

先週の金曜日、新宿の仲間が力を合わせて闘い、生き抜いていくための、仲間自身の会が結成された。その名は——『新宿闘う仲間の会』だ。この会は、2月17日の「一斉叩き出し」以降、粘り強く都や区への抗議行動を担ってきた仲間を中心に、「もっと仲間の輪を広げよう」「アオカンを仲間がかかえるいろんな問題を一緒に解決していこう」と旗あげされたものだ。

『連続殺人事件』のような痛ましい事件を二度と生み出さない、仲間うちの問題は仲間自身の力で解決する、追い出しをはかる都や区への行動を呼びかけ、仲間の力で担っていく、野宿労働者の命の問題を広く社会に訴え喚起していく、そんな行動が、これから『新宿闘う仲間の会』を中心に進められていくことだろう。山谷の俺たちも、全面的に支援するぞ。「いのけん」とも力を合わせて、新宿での闘いを共に作っていききたい。

『新宿闘う仲間の会』は、先週金曜日午後からの区・公園課抗議行動をかわきりにして、26日山谷での「日雇全協*反失業闘争報告討論集会」に参加、全国の日雇いの仲間との団結を固めた。さらにその夜の「いのけん」の炊き出しの後、街頭カンパ活動に出て、労働者・市民・学生に支援

全国日雇労働組合協議会 82年6月、釜ヶ崎・山谷・寿・笹島の寄せ場の労働運動体が70年代の主體的切開の共有によって結成された組織。通称——日雇全協。

を呼びかけ、翌日から「募金活動」を精力的に続けている。

「新宿闘う仲間の会」は、限られたメンバーだけの団体ではない。広く参加を呼びかけている。そして、上下関係もない。みんなが横一列に並んで、意見を出し合つて、全体の総意で行動を決めている。毎週火曜日の午後7時から、「電話の広場」で会議を持つという。ぜひ「仲間の会」に参加しよう。そして7月12日の「新宿一日行動」の成功に向けて、仲間へ声をかけよう！ おれたちは「新宿闘う仲間の会」と共に歩み続けていく。

先週の金曜行動では、新宿福祉と区・公園課に行き、「新宿闘う仲間の会」が先頭になって抗議と追及をあげてきた。

新宿福祉へは、「仕事に行けと言ふのなら下着と着替えを出せ！」「風呂券を支給しろ」「仕事につける条件を保障しろ！」と当り前の要求を出して、寒竹第一係長に食いさがった。だが係長はこう言う。「衣類は入院する人、仕事に行く人には出すが、みんなに配るわけにはいかない」「風呂券も今年は余りが無い」。係長じゃ話にならないと、引きずり出した課長・武山はもつとひどい。「うちでは精一杯のことをやっている。これ以上の事はできない」の一点張りだ。

「毎日うどんを食いにくるな！ここは食堂じゃないんだ！」追い払い、「仕事を捜せ」と頭ごなしに言う新宿福祉は、本当に俺たちの事を考えているのだろうか。

明日の行動でさらに追及を続ける。

さらに午後からは、「節水対策」と称して中央公園の水を出を悪くしたことに對して、再度公園





課に押しかけた。課長の杉田屋は先々週と同じ答弁の繰り返しだ。水を元のように出すことは、一カ所であれ出来ない——のらりくらりと喋りながら結論はこれだ。

ラチがあかないので、課長の上の土木部長への面会を求めたが、不在。土木部管理課長を追及するが、回答はなんら変わらず。

もう怒った。それでは区長に事態を聞いてもらい、区の判断を出してもらおう！

みんな区長室に押しかけ、面会を求めたが、約束をとっていないと面会は出来なかった。だが、秘書におれたちの厳しい現実を訴え、区長に伝えてくれ、回答を聞かせてくれとつめより、明日（7月1日）、区長からの回答が出されることになった。区長の判断は新宿区の判断だ。みんなで聞きに行こう。

フザケタ回答なら、抗議の声を上げよう！

冬の、一人の生活にイロし
94 新宿越 越冬闘
~95 新宿連絡会・越冬実

② ダンボール村を守り抜け

.....94・9—95・4



新宿連絡会の初弾の闘いは、新宿区への総合要求―団体交渉の取り組みであった。九四年八月から、要求書の作成にむけた広範囲な野宿労働者へのアンケート活動を実施し、二二〇名の回答を得た。パトロールの際に、一人一人に話し込みをして集めたアンケート結果は、当時の新宿の実情を明らかにする貴重な統計的価値を持ち、野宿労働者との信頼関係の下に集められた連絡会の財産であった。平均年齢は五十二・五歳、行政に望むもので一番多かったのが「仕事の保障」であったことなどは、改めて「就労による野宿生活からの脱却」を要求の基調に据えていく確信を与えてくれた。このアンケート結果を元にして、野宿労働者の率直な要求を練り上げ作成されたのが、「新宿区への総合要求書」である。要求は就労・住宅・福祉・住民への啓発・追放政策の転換など、今から考えれば百花繚乱の感もある「何でも要求」の内容であった。当時は運動に対する労働者の期待と希望が膨れ上がっていた時期だけに、とにかく勢いで団体交渉の場を設定させることは出来た。だが九月十六日に持たれた新宿区との正式な団体交渉では、要求項目の全てに対し「区だけの力では出来ない」「ただ今検討中」という職制らの回答が続き、揚げ句の果てには、ゼロ回答のまま時間切れが宣告されてしまう。参加した百名の労働者は逃げ惑う職制らを追いかけ一時騒然となった。新宿連絡会は、当日夜の集約集会で、翌週月曜日からの緊急集中対新宿区闘争を宣言し、闘いは初めての集中行動へと突入した。

早朝の七時半に結集し、朝情宣行動から連続した窓口・区長室への押しかけ行動を展開し、区議会本会議場に大勢して押しかけ傍聴し、区長に罵声を浴びせてカンバンを投げつけるなどの緊張した闘いが連日取り組まれ、新宿区を徹底的に叩く闘いは頂点に達した。この連続闘争の陣形は、活動者が労働者と共に二十四時間寝食を共にし、闘争布陣を構築するという、新たな体制の中で得られたものだった。全てを現場の労働者の息吹の中で決定していくという新宿連絡会の新しい運動スタイルは、この集中闘争の只中で確立された。一週間―十日間を活動者が現場に泊まり込み、ともに話し合う中で作られる闘争陣形は、後の「動く歩道」攻防戦の中でも、大胆に採用され、野宿労働者との信頼関係を深めていった。

一連の対区闘争の盛り上がりにより、新宿区はそれまで継続してきた「追放政策」の転換を迫られていく。一九八〇年の「新宿西口バス放火事件」を契機として、新宿区・警察・地域商店街・駅で結成され、地域からの排除を繰

り返してきた「新宿駅周辺環境浄化対策会議」(事務局は新宿区環境公害課に設置)は、その団体名から「浄化」の二文字を削除し「住所不定者を対象から外す」との決定を行なう。「現実にはそぐわないため」との理由は、野宿労働者の増大のみならず、当事者が声を上げ始めた現実への対応であった。

闘いは新宿区議会への「陳情書」提出―区議会攻防へと移り、新宿で初めての越年越冬闘争へと突入した。

越年越冬闘争は、新宿野宿労働者が初めて経験した「仲間と共に年を越す」闘いであった。それまでバラバラにされ孤立を強いられ年を越してきた労働者同士が、力を合わせて「仲間の命を守る」闘いに起ち上がったのである。年末年始には最大で六五〇名という、とてもない数の野宿労働者が一同に会し、路上拠点の西口地下広場で集団野宿する情景は、新宿が新たな社会矛盾の増地になっていることを物語っていた。

こうして同年十二月から翌年の三月までを越冬闘争期間として設定した労働者自身の闘いが進む一方で、行政の越冬対策事業である宿泊施設Ⅱなぎさ寮に収容されていた労働者が、相次いで二名も病死する事態が発覚する。一名は山谷の城北福祉センターから送り込まれ、一名は病気を抱え新宿福祉から生活保護を受け収容されていたものだ。「人命保護」を掲げる越冬対策事業の中身が、疾病を抱える労働者への対応すら出来ない収容型の施設運営の実態として露呈されたのだ。新宿と山谷では、越冬対策終了期を攻防の軸とした、ハンガーストライキに突入、三月十五日には百名の労働者で都庁・福祉局への押しかけ行動を勝ち取った。ところが都側は、ガラスの扉を閉めて、門前払いをしただけでなく、事務室内の職制らがニヤニヤしながら笑っているという対応に出て、人を嘲笑する態度に怒った労働者たちは、ガラスの扉を叩き割り事務室内になだれ込んで、腹の底からの抗議の声を叩きつけた。新宿警察はこの闘いに「建造物侵入」を強引に適用し、四名を不当に逮捕、内一名は起訴された。また三月十八日には、渋谷・原宿生命と権利をかちとる会の見津殺氏が交通事故で死亡する悲報が現場にもたらされた。新宿で闘いが始まって初めての弾圧と、共にスクラムを組み闘い抜いてきた若き仲間の死を乗り越え、春の闘いは開始されていく。東京都に話し合いを求め、団体交渉の実現を勝ち取るための署名運動が力強く展開されていく最中、その夏に「動く歩道」建設の一報が伝えられた。連絡会はすぐさま「私たちはダンボール村を守り抜きます」と大書したビラを出し、闘いを始めた。

「新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議」を結成します。

847

バブル崩壊後の空前の大不況の中、建設産業の末端で働き続けた日雇い労働者を筆頭に、中小企業などで働いて来た未組織、下層の労働者が真っ先に合理化の対象になり、絶対的窮乏層へと落とし込まれ、また資本、行政の救済措置の不備など社会的資源の不足とが重なりあい、失職した彼・彼女等は、都内各地の路上で野宿生活を余儀なくされています。

とりわけ、新宿においては、駅周辺だけで600名、新宿区内だけでおよそ千名もの野宿労働者が存在し、東京東部の山谷圏に匹敵する都内最大の野宿労働者を抱えています。その半数以上が高田馬場寄せ場や、新宿駅手配など駅ターミナル、公園手配で就業をしていた日雇い労働者です。

野宿労働者の問題は、資本による「安価な（日雇い・下層）労働力の使い捨てと再生産」を本質とし、労働・福祉行政が、「安価な労働力の（国策）動員と切り捨て（野たれ死に＝棄民化）」を調整しながら貫徹していく問題としてあります。

が、従来の国、都の（日雇い・下層の）労働力政策は今、完全に破綻しています。野宿している労働者を何等かの形で「養う」（ストックする）展望も根拠もない中、手をこまねいている内に、日雇い労働者、下層労働者の矛盾が複合的に重なりあいながら、都市のどまん中で、野宿する無権利状態の労働者が爆発的に増え続け、失業実態と国、都の無施策を明確に醸しだしながらいに「社会問題」へと至るまでになってしまったのです。

2月17日の東京都、新宿区合同による「一斉叩きだし作戦」は、この施策の破産を隠蔽するた

めに行なわれた、野宿労働者の「大量処分」に向けた攻撃でした。

私たちは、この2月17日以降、半年間、連日にわたり、新宿で野宿する労働者と共に、東京都、新宿区の叩きだしの責任を追及する大衆行動を展開しながら、福祉行政に対して、生活保護の全面適用を求めて、運動を行なってきました。そして、その渦中で新宿で生き抜く当該の野宿労働者の団体である「新宿闘う仲間の会」が結成され、区・公園課の取水制限を大衆団交で撤廃させたことや、7・12一日行動の成功など、運動的な飛躍が勝ち取られています。

が、東京都、新宿区は、叩きだしの責任を何等取ろうとしないばかりか、新たな叩きだしを画策するために「都区検討会」を秘密裏に再開し、「都市の三大悪」の一つと野宿労働者の問題を位置付け「実態調査」を開始しています。

私たちは、新たな叩きだしを阻止すべく、都区の責任を更に追及しながら、今冬期に具体的な施策を撃ち下ろさんとしている「都区検討会」の「対策」を撃ち破り、新宿で野宿している仲間の生活・就労権を勝ち取っていくために、今秋期、新宿区、東京都に対する行政闘争を本格的に開始していくことを決意しました。とりわけ、労働行政に対するたたかいは、必須の課題です。

東京都は野宿労働者を「働く意欲のない」「路上生活者」Ⅱ「浮浪者」と規定し、労働問題を隠蔽したまま、「大量処分」を行なおうとしているからです。その一方で、労働省、都・労働経済局は雇用保険法の改悪など、日雇労働保険証（白手帳）による日雇い労働者の管理を推し進めようとしているのです。働ける者は徹底的に管理し、働けなくなった者は、「浮浪者」として「処分」し

ようという攻撃です。

これら、野宿労働者にかけられている諸攻撃に反撃し、野宿労働者の生きる権利を求め、野宿野宿労働者と共にたたかう、新宿現地の共闘団体である「連絡会」を私たちは結成します。

新宿野宿労働者のたたかいに共感を寄せる全てのみなさんが、「連絡会」に結集されんことを訴えます。

新宿闘う仲間の会／山谷労働者福祉会館・人民パトロール班／渋谷・原宿 生命と権利をかちとる会

きのう100人の仲間が対区大衆団交をかちとった
が、区のお客は「仕事は出せません」「福祉も出せません」
冗談じゃない！ 区はこの冬俺たちを見殺しにする気か！

84.8.17

仲間たち！

俺たちは、きのう朝8時から区役所前を制圧し、職員や、市民にビラをまきながら、俺たちの要求を訴え、午後2時からの団体交渉にのぞんだ。

区側で、出席してきたのは、以下の8人だ。

総務課・課長

愛宕

福祉部・保護課長

武山

福祉部・部長

深沢

土木部・部長

金沢

管理課長

馬場

〃 公園課課長 杉田屋

住宅計画課課長 矢口

環境部公害課課長 清水

俺たちは「総合要求書」の項目ごとに回答をもらい、項目ごとに交渉をすることを、愛宕と確認し、交渉に入った。

まず仕事の要求項目からだ。「日雇労働者に区発注の仕事を出せ」の要求に対する回答はこうだ。「雇用促進策などは制度的には出来ない。都の『要綱』に準じて区は今まで、日雇に仕事を出して来た。これからも分野を広げてやって行く」(馬場・金沢)

納得できないと、仲間の追及がはじまった。

その中で、とんでもないことが分かった。

今まで日雇を使ってきたと言うのに、そのデーターすら、土木部はまとめていない。

これから、どの分野にどれだけふやすのかを聞いても、具体的に答えられない。

いつからふやすのかと聞いても、「早急に」と繰り返すだけ。

「検討しますと言ったときながら、何も検討してないじゃないか!」「2カ月なにしてた!」

「やる気がないじゃないか!」

この項目の回答は認められない。今後の交渉まで具体的なものをもってこいと、俺たちは通告して、次の項目に移った。

次も、仕事の項目だ。俺たち新宿で野宿する者に、特別に区の仕事を出せとの要求だ。

が、この項目の回答も「出来ない」の一点ばり。おまけに、福祉の深沢や武山までもがでしゃばり、「区で、できることと、できないことがある」と、居直ってきやがった。

「ふざけるな！ それじゃ、福祉は何をやってきたんだ！」仲間の怒りの声に、武山は、「やることはやってきた。これ以上はできない」とまで言い放った。

この暴言に仲間の追及が徹底的に行なわれる。

ところが、俺たちが交渉を続けている最中、愛宕が突然、立ちあがり、「6時になりましたので、交渉は打ち切ります。今後、交渉しません。今日でおわりです」と、一方的に言い、職員に守られ、トンズラをこいた。

「残りの回答はどうした!?」「フザケルな!!」俺たちの体をはった怒りの前、奴らは逃げまわる。実は、この時、役所の前にはポリが60人も待機していた。奴らは俺たちに挑発をかけ、ポリとつるんで俺らをバクろうとしてたんだ！

奴らの思惑は、俺らのまとまった行動で粉碎された。

仲間たち！ 闘いはこれからだ！ 俺たちの要求をふみにじった区を許すな！ 団交再開を求めて俺たちは闘う。対区連続闘争へ進撃しよう!!

新宿連絡会

対区連続闘争 “追い出しやめろ、仕事をよこせ、生活を保障しろ！”を合言葉に、総合要求をまとめ、94年9月期に新宿区に対して取り組んだ行動。

対区連統斗争5日目、本会議場
区長めがけてカンバンが飛んだ*

84・9・20

新宿の仲間たち！

先週の金曜日の団体交渉から、俺たちは、連日、新宿区に対する抗議行動を展開している。ポリとつるんで、交渉を途中で打ち切り、二度と交渉をしないとぬかした新宿区を俺たちは絶対に許しはしない。

きのうの総務課課長愛宕追及、本会議傍聴闘争に引き続き、今日も40人の仲間が8時から新宿区役所前を占拠し、一日行動を開始した。

俺たちの要求を書いた横断幕をはずせという庁舎管理の連中の妨害をはねのけ、出勤する職員へのビラをまき行動をやり抜き、今日は土木部に押しかけを行なった。

土木部には、交渉の時、積みこした大きな宿題がある。

「今まで、新宿区の公共工事に日雇労働者を雇っていた。これから分野を広げて、雇っていく」なる交渉時の「回答」への質問に対して、奴らはなんら具体的に答えられなかったからだ。

俺たちが聞きかかったのは、「今までどのくらい日雇労働者を使い、これからどんな分野にどれだけの規模で増やして行くのか」だ。

回答の前提にもなることすら交渉で答えられない、データも調べていないじゃお話にもならない。

交渉を打ち切ってこの問題をうやむやにさせる気だろうがそうはさせない。俺たちは、管理課

“カンバン”が飛んだ 区議会では区長が「カンバン、カップめんが好評で…」と発言したことを受けての抗議行動。ちなみに、「好評」のカンバンは以降、越冬期のみに制限される。

長馬場と、公園課長杉田屋を追及した。ところが、馬場は、「昨年度の実績は52人の日雇労働者を雇用した」と言うだけで、「これからどれだけ」と聞いてもあとは、ダンマリをきめこむ。

月に4人しか日雇労働者を使わず、今までやってきましたとはよく言うよ。しかも白手帳もっていないれば仕事にありつけない馬場職安から出していれば、これから増やしたとしても新宿で野宿をしている仲間にはまったくまわって来ないじゃないか。

何を言っても「前回お話した通りです」を繰り返す馬場では話にならない。俺たちは、土木部長の金沢を引きづり出し、今後どのように就労対策をするのかと問いただした。

そして、ようやく「日雇労働者の就労対策は区としても行なっていく」「時期とか規模はこれから関係部所と協議していく」と、馬場よりはちよつとは具体的な回答を引き出した。

それならそれで、責任もつてもつてもらおうじゃないか。奴らは尻を叩かなければ何もやろうとしない。これからも、どんどん土木部に押しかけ、協議の結果を逐一報告させ、俺たちの要求にそつた施策をしてもらおうじゃないか。これからもドンドンおしかけるぞ！

山谷と新宿をつらぬく反失業闘争実行委員会（準）の仲間が昼に合流した。山谷の仲間が炊いて来てくれたメシを食ったあと、昼からは、昨日に引き継ぎ、本会議の傍聴闘争だ。34人の仲間が、傍聴席を陣どる。代表質問の社会党からは、俺たちの問題の質問がなかった（社会党も政権を取ると冷たいネ）が、区長の答弁には、傍聴席から、ヤジが飛びかう。再三の議長長の「静粛に」など効果もない。しまいには、区長が答弁を中止して、傍聴席をシカめつつらでにらみつける始

末だ。俺たちの怒りを思いしったか。

傍聴席を制止できる奴はいない。カンパンやカップうどんをヒモでつるしてデモンストレーションをやり、最後には、区長めがけて、カンパンが投げつけられた。

『これが「好評」のカンパンだ。拾って食ってみろ!』の声に、区長は、職員に守られ一目散に逃げだした。

区長よ。こんなもんで、まだまだすまないぞ。一方的に団体交渉を打ち切り、俺たちの声を踏みにじったことが、どれだけ重大なことか、身をもって知るがいい。

新宿区は、団体交渉を再開しろ! 仲間の声も聞け!

団交再開まで、俺たちは新宿区を徹底的に攻め抜いてやる。

明日も対区行動だ! 仲間たち、俺たちをなめくさっている新宿区に、俺たちの怒りの声を叩きつけよう。明日朝、7時半、「新宿の目」前に集まれ!

新宿連絡会

**この冬どうするつもりだ!
明日10/21越冬対策をめぐっての対区交渉をやるゾ!**

94・9・20

新宿の仲間たち!

団体交渉を打ち切った新宿区に対するたたかいがたたかわれている最中、団交問題を棚にあげ、恥知らずにも新宿区は「街頭相談」を強行してきた。

当事者の話も聞こうともしない区に何が出来るというのだ！

俺たちは、先週の日曜日「街頭相談」に対する要求書提出行動に続き、18日「街頭相談」の行なわれる当日に、抗議行動を展開した。

そもそも、「街頭相談」は、環境浄化の一環として、俺たちを新宿から追い出す目的のため始められた「事業」だ。

福祉の事業だといひながら、当日も環境公害課の清水課長が会場内でウロチョロしていたように、環境浄化の影が今もちらついている。

俺たちは、「街頭相談」の時間と同時に、インフォ前で炊き出しと、集会を130人以上の仲間の力でやり抜き、スバルビルまでワッショイデモをかけ、街頭相談の会場前に押しかけた。

そして、受付にいる武山課長を相手に、弾劾の嵐を叩きつける。最初は交渉を渋っていた武山課長も、俺らの気迫を前にして、交渉をせざるをえない。

医療相談といひながら、例えば、65才の足、腰の悪い仲間を、相談員が「悪くなったら来い」と追い返すなど、とんでもない実態が暴露され、奴等は動揺する。「たいした事も出来ないで何が相談だ！」仲間の怒りの声が次々に上がる。事実、体の悪い仲間の相談はほとんどが翌日まわしだ。入院できた仲間は2人しかすぎない。「なんのための街頭相談だ」の声に、武山課長は「必要があるからやっている」と、必要性の美味も言えずうろたえるだけだ。

「街頭相談」の欺瞞性は俺たちの声で暴露されきった。奴等は8時を過ぎると、すごすご引き揚げざるを得なかったのだ。

結果、95件の相談で、内10人が診断し、2人が入院と、今回も大した実績も残せず、「街頭相談」は失敗した。

そして、越冬対策に関する要求書も、武山課長につきつけた。が、当日の回答は、「新宿の施設が88人枠で12月下旬から、3月まで、大田寮は300人枠で1月10日から3月14日（予定）まで、だが、どういう人を入れるかはまだ決まっていないが、私としては、高齢者（65歳以上）と、病弱者を優先的に入れたいと思っている」という回答だった。

12月から始まるというのに、未だにも正式に決まっていない。こんな調子じゃ、どうなるのかさえ分からない。

要求書に対する正式な回答と交渉は、今度の金曜日に行なわれる。団体交渉拒否の区の態度を打ち破る大きなチャンスだし、なによりも、今年の冬、東京都と新宿区が、俺たちのために何をやるのか、これは、俺たちにとって死活の問題だ。

金曜日、行政がこの冬、何をやるのか、みんなで、聞きに行こう。納得できない対策なら、みんなで俺たちのためになる対策をするよう、要求していこう。

越冬対策に関する要求事項

- 一、事実上「野宿労働者の叩きだし」を意図した「環境浄化対策」等施策を伴わないこと
- 二、新たに設置する宿泊施設の使用期限を限定せず、通年使用を認めること

三、宿泊者による自主管理を認めると同時に、民間支援団体・市民による共同運営方式を導入すること

四、宿泊期間中にすべての宿泊者に対して就労や住居斡旋、完全医療の保障、生活相談など自活支援策を講じること。この際、生活保護法の積極的な適用を図ること

五、冬期のあいだ野宿を強いられる労働者に対して、生命保護の責任を負うとともに、住居の保障、食料や毛布の支給、医療などの支援策を講じること

六、宿泊施設の建設にあたっては掃除や片付けなどの簡易な仕事も含め、事業主（都・区）の責任において、野宿労働者の優先的な雇用を行なうこと

七、都ならびに区は、当該野宿労働者の実情に応えるため、交渉の場に応じること

八、すべての野宿労働者は「要保護者」であるとの認識に立ち、生活保護法の適用によつて住居を保障すること

新宿連絡会

**先週金曜日・環境公害課へ追しかけ
14年間にわたり仲間を追い出し続けてきた区の
「環境浄化（追い出し）対策」をつつぶしたぞ**

94.11.7

新宿の仲間たち！

先週の金曜日は、午前の福祉行動の後、区役所八階にある環境公害課に乗り込んで、課長・清水に「環境浄化を掲げた野宿労働者の追い出しを今後一切やるな！」と声を叩きつけ、双方の話

し合いをもち、「今後一切の追い出しはしない」と確約をもぎ取ったぞ！

これまで新宿区は、「(野宿者の)問題は都区検討会で具体的な対策を検討している」と、自らの責任を都区の問題としてサジを投げ、団体交渉も打ち切って平然としてきた。

だが「都区検討会」での具体的な施策が遅々として進まず、唯一やることと言えば「緊急越冬対策」と称してわずかの期間、施設に収容するだけのものだ、都区合同の施策が進まない中で、新宿区が独自に押し進めてきた「環境浄化対策」(＝追い出し)が、宙に浮いてしまったことも当然の事であった。

「環境浄化対策会議」——1980年8月に起きた「新宿駅西口バス放火事件」を契機として発足した、野宿者追い出しの機関。新宿区と駅、商店街、警察が手を組み、おれらの先輩たちを次々に排除していった極悪の結社だ。当時、「毒まんじゅうを食わせてやれ」と秘密裏に話し合われ、人権感覚のかからずらい、徹底した追い出しで「問題の解決」をはかろうとしてきた奴らの誤りは明らかだろう。だが驚くべきことに、今年2月の「街頭相談」の場には、「環境浄化対策」の看板が掲げられ、7月までは「環境浄化のパトロール」が、区の管理職・商店街・警察の連中で進められてきたのだ。こんなのは、絶対におかしい。区は環境浄化対策を即刻やめろ！これはおれたちの当然の要求である。

環境公害課・課長の清水はキッパリとこう断言した。「環境浄化という言葉はそぐわない。状況が変わったと考えている。社会問題・都市問題として検討していくべきことだ」「今年8月からは、パトロールを中止にすることを会議で決めた」——さらに「10月20日の会議で、環境浄化対策会

議から環境対策会議と団体の名称を変更した。従来対策内容に盛り込んでいた「住所不定者」の項目を削除した」「今後は、騒音とか自転車・看板などの環境問題だけを取り扱う。追い出しはしない」

何と（一）14年間の長きにわたって新宿で野宿する仲間を追い出し続けてきた「環境浄化対策」を、ブツ潰してやったのだ。これはこの間の新宿区への連続した闘いが、一つの成果として実を結んだ大きな地平だ！

今、新宿区以外の区でも、区の方針として駅や公園からの追い出しが進められている。その中で、新宿区の追い出しの機関Ⅱ「環境浄化対策会議」を破産に追い込んだ事は、都下で野宿する仲間にも、大きな勇気を与えることだろう。

だが、14年間にわたって、おれたちへの差別と偏見を市民に植えつけ、追い出しに躍起となってきたツケはきっちり払ってもらおう！ 今週は区議会本会議への連続傍聴だ！

さていよいよ11月の、越冬前段の闘いに突入だ！ この11月の闘いは、都区の進める「緊急越冬対策」に対して、前回やったような「叩き出しとセットにした越冬対策にさせない」「この冬の間、一斉撤去を一切やらせない」ことを、行政に突きつける闘いだ。

まずは手始めに、新宿区議会に対し、「陳情書」を提出するぞ！ 9月本会議では、議員の質問に「野宿労働者問題について」という項目があったものの、議会として何かを決定した訳ではない。区長が適当に答弁して、それで終わり。お茶を濁してそのままだ。

それならば、おれたちの方から、「野宿労働者問題について」——「追い出しをやらないこと。福祉対策を充実させること。就労対策を進めること。当該の野宿労働者と話し合いで解決をはかる事」など、当り前の要求を「陳情書」という形で突きつけて、議会での採択を勝ちとってこようじゃないか。

団体交渉の打ち切り以降、野宿するおれたちの声も聞かずに一方的に進められる「緊急越冬対策」には、大きな疑問がある。「寮に入れてやるから、ここから出て行け。寝床を明け渡せ」という代物であるなら、「越冬対策」など無い方がいい。

議会に突きつける「陳情書」は、採択を通じて「追い出しをしない」ことを議会で決定させ、これを踏み絵として、都と合同の叩き出しをさせない布石とすることができると。

それには、仲間の結集と議会への働きかけが必要だ。本会議は10日、11日と連続して開かれるぞ！ 10日に皆で、「陳情書」を提出し、その後の扱いを監視し続けよう。連続した傍聴闘争をやり切り、12月初旬に開かれる最終本会議まで、越冬前段の闘いとしてやり切ろう！ スローガンは「追い出しとセットにした緊急越冬対策をやらせない」だ！ 木曜日朝9時半、『新宿の目』に集まろう！

いよいよ22日、さくら寮が開設される
高齡の仲間・病氣の仲間をみんなで支え、

12/22(木)街頭相談——入寮闘争へ

84.12.18

新宿の仲間たち！

12月の初旬から開始された越冬闘争が、着々と進んでいる。「今年の冬は仲間の中から一人の野垂れ死にも出さない」を合い言葉にして、パトロール、炊き出し、そして資金調達のためのカンパ活動と、ほとんど毎日のように、展開が進んでいるぞ！

そして今週は、ついに「さくら寮」への入寮が始まる。22日の「街頭相談」で、さくら寮への入所を受け付ける。二三区と東京都がやつのことで重い腰を上げ、俺たちの泊まる宿泊所を作った、これがさくら寮だ。

さくら寮のことをもう一度確認しておこう！

定員は88人。最大で96人まで入ることが出来る。しかし、この人数分を全て新宿の仲間が利用できるわけではない。二三区で共同で使うため、他の区で野宿している仲間も、さくら寮にはやってくる。

新宿福祉では、70人を新宿で使えるように要求しているというが、おとといの時点ではそれもまだ決まっていなかった。一週間前になっても、まだもたもたしている。

今までの福祉課長・武山との話し合いで分かったことは……

①22日の受け付けでは、原則として65歳以上の者、病氣の者、2週間以上通院している者しか入寮できない。

さくら寮 前回の太田寮を使った緊急越冬対策を受け、94—95越冬対策から開始された寮。新宿御苑近くの撤去自転車保管所に越冬期に開設。

②食事・規則・門限などは大田寮と同様。

③年明けの12日には、大田寮に強制的に移動させられる。(ただし特定の病院に通院していて、病院を変えられない仲間とはさくら寮に残る)

④週明けの26日から28日までは福祉の窓口で入寮相談を受け付ける。

俺たちの越冬闘争の目的は、「一人の野垂れ死にも出さない」だ！ 自分たちの回りにいる、年取った仲間、病気の仲間にもさくら寮に入ってもらおう！ そして寮に入った仲間に面会活動をして結びつき、お互いの団結を強めていこう！ 自分だけよければなんて、新宿の団結じゃない。寮でも厳しい現実はあるだろう。力を合わせて、この冬を越していこう！ 高齢・病気の仲間、22日の「街頭相談へ」へ！ 皆で仲間を見送るぞ！

俺たち新宿連絡会・越冬実では、「新宿だけじゃなく、他の駅で野宿する仲間とも結びついていこう」と、先週から広域パトロールを始めた。「新宿ではこう闘っているぞ！ そっちではどうだ？ 22日からは越冬対策も始まるぞ」と、ピラを渡しながら声をかけ、情報を交換し、同じ野宿する仲間同志の団結をつくっていこうという取り組みだ。

第二回めの明日は、高田馬場を回るぞ！

高田馬場で、野宿している仲間の多い場所は戸山公園だ。屋根のあるスポーツセンターの回りには、20人位の仲間が野宿をし、公園の所々にも、仲間がいる。

ここでは、新宿と同じように、追い出しが頻繁に行なわれてきた。公園管理事務所や警察・地域住民の追い出しパトロールがしょっちゅうやられ、「ここから出ていけ！ 荷物を撤去しろ！」と、怒鳴りつけたり、毛布・ダンボール・荷物の撤去が行なわれている。

撤去作業は、新宿でも仲間の荷物を奪い続けてきた『東京都第三建設事務所*』がやっている。奴等は、野宿する仲間の荷物をかっぱらうのが仕事のように、連日どこかで撤去作業を続けているらしい。

戸山公園では、どんな具合に追い出しと対決しているのだろうか？ 仲間に直接聞いてみよう！ 出ていけと言われたって、いく場所がないから野宿をしているんだ。そこは、俺たち新宿とも同じ条件なわけだ。

駅の方は野宿する仲間も少ない。ビルの間や軒先に点々としている。駅の職員や警察の連中はどんな対応をしているのだろうか？

駅前のコンビニストアにあったダンボールを持ってきた仲間が、店員に暴行を受けるという事件もあったという。とにかく足を運んで様子を聞こう。そして一緒に越冬を闘おうと呼びかけよう！ 明日夜9時に、インフォメーション前から出発だ！ 皆ぜひ参加しよう。

新宿連絡会・越冬実行委

都三建 新宿西口を管轄する都建設局の機関、「ダンボールハウスはゴミ」として撤去—野宿者排除を繰り返す。

さあ、新しい年が幕をあけた!!
95年、新宿から團いの炎を

95
111

仲間たち！ 95年が幕をあけたぞ！

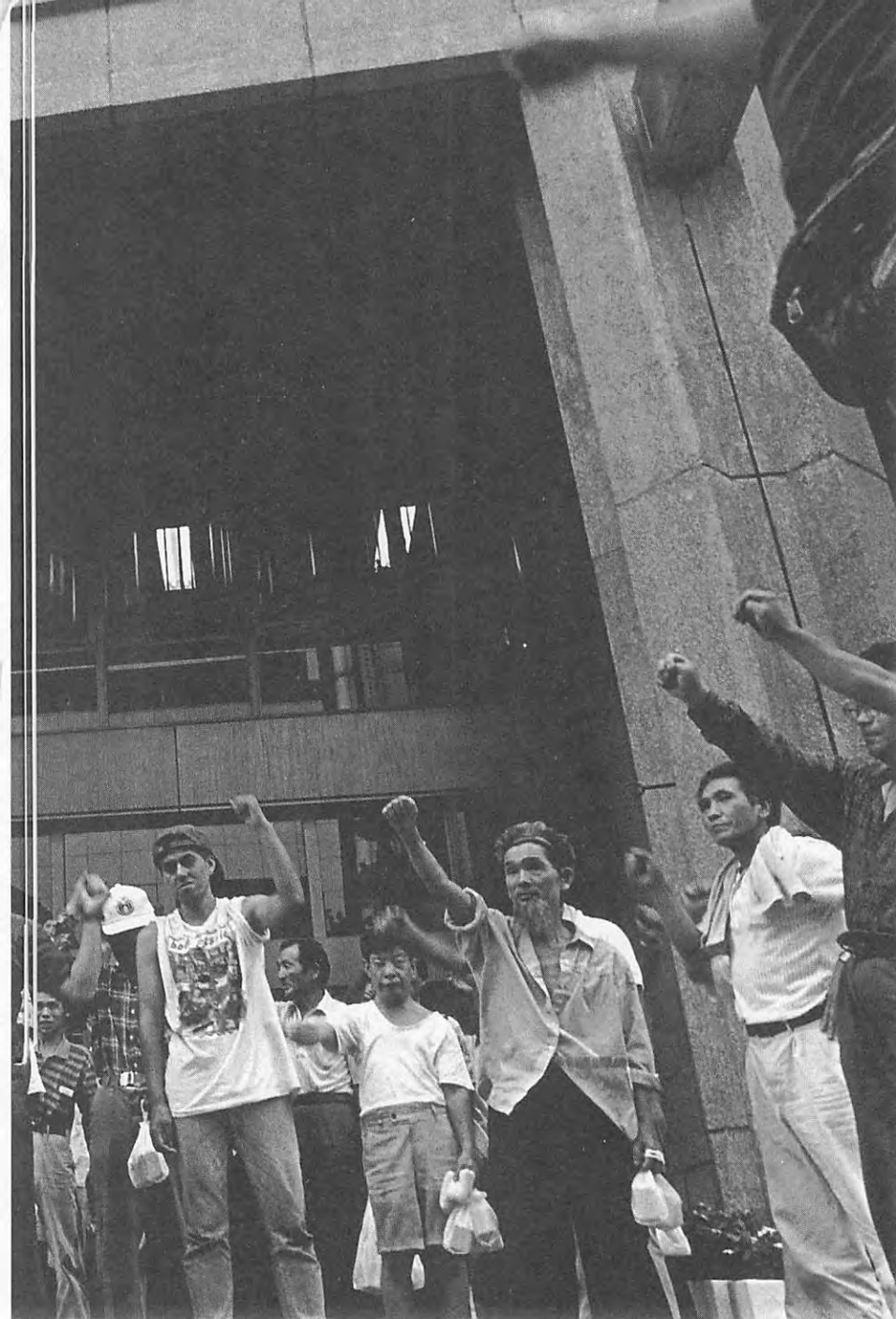
俺たちは、第1回新宿越年・越冬闘争の熱いたたかいの中で、1年間培ってきた仲間の強い団結の中で、新しい年を迎えた。

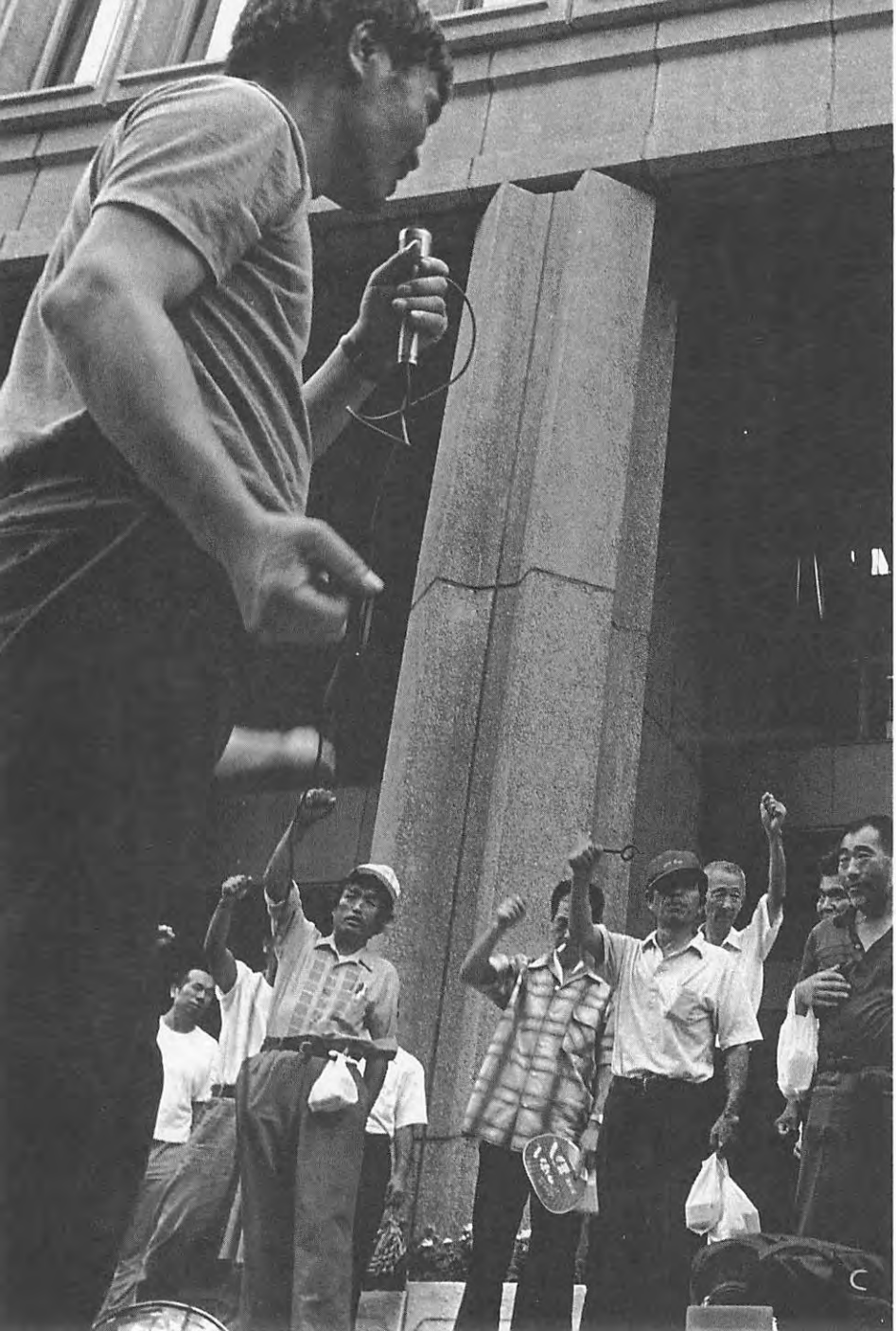
俺たちは新たな決意をもって新たな年を迎えよう！ 俺たちの団結こそ、いかなる敵をも打ち破る最高の武器だ。この武器を鍛え俺たちは、俺たちを野宿へと追い込んでいる奴等、俺たちを野垂れ死にへと追い込もうとしている奴等に対する反撃の狼煙を、この新宿の地から必ずやあげていこう！

仲間たち！ 仲間の力で冬を越そう！「黙って野垂れ死ぬな！ 仲間の命は仲間の力で守り抜こう！」この越冬スローガンを再度肝に命じ、越年闘争5日目、新たな年にふさわしい団結した取り組みを集中しながら行なおう！

きのうの昼間、俺たちは「さくら寮」に入寮している仲間への面会行動を行なった。

「さくら寮」を管理している連中は、寮の表で面会をしろと、俺たちを寮の中に入れてくれなかった。そもそも病気や高齢の仲間が多いというのに寒空の中で面会をさせるとは、どういう神経だろうか？ 面会に行った仲間からも「やつぱり、これは分断だ」と、隔離・収容の本質をついた憤慨の声があがった。が、「さくら寮」に入寮した仲間は、連日西口地下に遊びに来、分断を許さずたたかっている。俺たちが差し入れたピラも娯楽部屋に公然と置く事も認めさせている。





仲間たち！ 分断を許さずたたかおう！

きのうも、俺たちは東京駅へのパトロールに出かけた。東京へは山谷のパトロール班も合流して、東西両拠点からパトロールに繰り出し、連帯を訴えてまわったぞ！

大晦日で終電がなく、地下道は朝まで開放されている。42人の仲間と俺たちは出会い、結合を深めていった。

仲間たち！ 俺たち野宿労働者が、一人、一人バラバラにさせられたら敵の思う壺だ。俺たちは、どんな仲間とも、どここの仲間とも結びついて行く。そうやって、俺たちの団結をもっと強く、もっと深くつくりだして行こう！

夕べはやや夜遅くまで、インフォメ前でカラオケ大会を行ない、新年の瞬間を祝い酒で迎え入れた。古い仲間が言っていた「去年は、除夜の鐘が遠くから聞こえてくるのが、寂しかったけど、今年は賑やかで本当にうれしい」仲間が力を合わせるのには本当にすばらしいことだ。

東京駅のパトロールの他、新宿内のパトロールも3回にも渡り行ないながら、仲間の命を守って行く取り組みを行なったぞ。大晦日だけあって仲間は移動しているようで、俺たちが出会った仲間は520人とかなり減っていた。150人くらいの仲間が移動したようだ。

昨日の朝、山谷ちかくの隅田川のスポーツセンター健康相談室で医者にかかった仲間が11人もいた。朝、車に分乗し、山谷に向かった。

体の具合の悪い仲間も多い。昨日の夜も、救急車で一人の仲間が国際医療センターに運ばれたが大事には至らず、俺たちは病院と連絡をとりあい、車で迎えにいったが、仲間は一人で歩いて

帰ってしまったという。

かなり病人が多いということもあって、山谷を支援してくれる医者仲間が明日と明後日、また新宿に来てくれることになった。調子の悪い仲間は、是非、医療相談に来てくれ。夜6時から朝6時まで、本部横の机でやっている。

そして、緊急性がない仲間以外は、みんなで支えあいながら、正月あけまで頑張り、1月4日、新宿福祉に行つて福祉をかちとろう。ろくな対策もせず、俺たちを「見殺し」にしている新宿福祉を追及しながら、病気の仲間には、病気が直せる条件を確実に保障させよう。「さくら寮」やその他の寮が一杯になろうが、俺たちには関係ない。病気の仲間には、病気が直せる条件を保障するのが当然だ。アオカン通院など平気でさせている新宿福祉のやり方が、多くの病気の仲間を放置している。

行政の無策を追及し、福祉の見殺しを許さず、俺たちは病気の仲間を支えて頑張つて行こう！

仲間たち！ 越年闘争もあと3日だ。最後の力を振りしほり、仲間の力で越年闘争を勝利させよう！

新宿連絡会・越冬実行委

法内に入れといて、病院にかよわせなかった！
2/6「なきさ寮」で亡くなった仲間の死は「アサンな越冬対策」のせいだった！！

仲間たち！

この前の金曜日、新宿福祉行動で、2月6日「なぎさ寮」から病院に運ばれ亡くなった新宿の仲間、倉島さんの死に関しての追及行動を行なった。

まず、前のピラでは倉島さんは2週間の法外援護で入った仲間と書いたが、これは事実と違った（訂正とお詫びをします）。新宿福祉の係長との事実確認では、彼は2月1日新宿診療所で診断を受け、糖尿病などの病名で「長期通院が必要」との診断結果が出た。それに基づき新宿福祉は生活保護を適用、倉島さんを「なぎさ寮」に送ったのだった。

だが、病氣治療のために「なぎさ寮」に入寮した倉島さんだが、亡くなる6日まで病院には通っていないことが明らかになった。病氣療養のために入寮したにもかかわらず、新宿福祉および「なぎさ寮」の管理者は、彼を病院にかけることなく見殺しにしたのだ。

実は「なぎさ寮」に生活保護で入寮した仲間が病院に具体的にかかる方法は、寮の事務所に申し出をしてから病院に行くという方法をとっている。一旦寮に入ると、福祉は病院に行くこと含めすべてを寮にまかせきりで、重大なことが起こらぬ限り動きはしない。生活保護で入った仲間が実際に病院に行ったのか行かなかったのかすら、福祉の連中は分からないシステムになっている。

そもそも「越冬対策」とは、俺たちの命をこの寒さから守るためにたてられたのではないが、だが、今回、病気の仲間を病院に通わせなければならないのに、病気の仲間を平気でほったらかしにする。こんなズサンな「越冬対策」があるもんか！

俺たちを殺す「越冬対策」なら今すぐやめてもらおう。山谷では城北福祉センターから「なぎ

さ寮」に入った仲間が殺されている。「なぎさ寮」での仲間の死を追及しよう！

新宿連絡会・越冬実行委

3・12、17連続行動の地平を打ちかためよう！
4名の仲間を奪いかえそう
俺らの力でこじあけ都・交渉に向け仲間の力を結集しよう！

仲間たち！

俺たちは、12日から17日までの6日間、西口地下インフォメ前をハリスト拠点しながら、「越冬対策」で2名の仲間を殺した、新宿区、「なぎさ寮」、そして東京都に対する抗議行動を連日にわたって取り組んだ。

行政の奴等はポリとグルになって俺らの仲間4人を逮捕し去ったが、不当弾圧にもめげず俺らは、東京都・福祉局との「交渉」の確約をもぎ取る大きな成果を勝ち取った。俺たちの力は、東京都に俺たちを交渉団体として認めさせ、俺たちと「話し合い」のテーブルにつくことをついに認めさせた。

それもそうだ。2人の仲間の死は、当事者の意見、要望を聞くという、当たり前前の事すらしてこなかった東京都のズサンな「越冬対策」の結果だからだ。「越冬対策」前に俺たちが再三にわたって「話し合い」を要請していたにもかかわらず、奴等は『話し合いはしない「参考意見」としてなら聞いてやる』と俺たちの声を突っぱね、一方的に「対策」を強行してきたことのツケが、今まわっているんだ。事実、今回の弾圧があっても、多くの市民が俺たちのたたかいを支持してく

れている。都職労の仲間、新宿区議の仲間も俺たちのたたかいを応援してくれている。

東京都や警察が、今回の事態を脚色し、俺らに非があるかのように、いくら演出しようとも、1年間たたかってきた俺らの要求の正しさは決して色あせはしない。

仲間たち！ 2人の仲間の死を追及しよう！ 4人の仲間を奪還しよう！ そして、俺たちの声を、俺たちの怒りを東京都にぶつけよう！「対策」終了をもって、何もしようとしない行政の奴等に、追い出しやめろ！ 仕事をよこせ！ 生活を保障しろ！ と要求していこう！

今こそ、野宿している一人一人が立ち上がる時だ。共に前進しよう！

3・15都庁行動の際、新宿連絡会の仲間1名を含む4名の仲間が新宿署の私服ポリによって逮捕された。都庁21階、福祉局・山谷対策室での抗議行動を終え、整然と退室しながら地上に降りるエレベーターを待っている時に、突然、機動隊を導入し、私服ポリが3名の仲間を狙いすましたかのように連れ去り、そして、庁舎から出、昼飯の準備をしているところ、またしても機動隊が乱入し、挑発を繰り返し1名の仲間を逮捕し去った。

容疑は「建造物侵入」等になっているが、通常なら都に被害届けを出させ、証拠を採取してから「容疑者」を特定し、礼状逮捕すべき所を、まったくその手続きさえせず、しかも、現行犯逮捕でもない（4名共、逮捕された場所は都庁に用事のある者なら誰でも通れる場所だ！）。事実経過からも分かる通り、まったくファイ打ちの不当逮捕なのだ。

新宿署の連中は、都からの通報を受け機動隊をかき集め到着したものの、俺らはすでに撤収に

入っていた。それで奴等はメンツをたてるため、主要なメンバーを手当たり次第引っぱっていったのだ。

「混乱を引き起こしたについて謝罪する」と俺たちの前で言ったその口がかわかぬうちに警察に通報し、機動隊を庁舎の中に導入させる「騙し討ち」をした東京都、そして、運動つぶしを狙い、混乱に乗じ、特定のメンバーを不当逮捕した新宿署を俺らは絶対に許さない。

逮捕された4人の仲間は、現在、新宿署、警視庁に分かれ留置されているが、元気で頑張っている。

俺らがつかみ取った成果と引き換えに、不当にも「人質」にされた仲間を奪還しよう。俺たちはすぐさま弁護士を入れ、奪還に向けた取り組みを全力で開始している。

そして、弾圧を口実としたデマキャンペーンを仲間の力でブツつぶそう！

仲間たち！ 分断許さず、足並みを揃え、弾圧に反撃していこう！

新宿連絡会

追悼 見津毅* (享年27歳)

俺らの仲間、見津毅氏が3月19日午前2時59分交通事故で亡くなった。彼のあまりにも若くあまりにも突然の死は、俺らを愕然とさせ、言葉を失わせた。

新宿の仲間と共に、常に新宿のたたかいの最先頭にいた見津氏。ある時は怒り、ある時は笑い、仲間と真剣に接し続けていた見津氏。新宿の問題を広く社会に訴えようと奮闘していた見津氏。

見津毅 「いのけん」の中心メンバー。社会新報の記者でもあった。95年友人の結婚式からの帰宅途中、バイク事故で死亡。遺稿集『終止符からの出発』（インパクト出版会）・追悼文集『安らかになんて眠らせない』がある。

幾つもの思い出を残し、彼の姿は永遠にこの世から去った。

残された俺らには、彼の新宿にかけた努力、熱意を忘れることなく、そして、無駄にすることなく引き継いでいく事しか出来ない。

新宿のたたかいがある限り、見津氏は俺らと共にあるし、俺らを暖かく見守ってくれるだろう。

俺らは、彼の名を新宿のたたかいの隊列の中にしっかりと刻み、志し半ばで倒れた彼の無念を必ずや晴らしていく。

見津毅。仲間のためにありがとう。そして、ご苦労さま。

1995年3月22日 新宿連絡会・事務局
(連絡会通信、5号より)

祝メーデー・これが俺らの力だ！ 全都全国の仲間の結集でメーデーデモ大勝利

85・5・1

仲間たち！

俺たちは、5・1メーデーデモを、全都の野宿労働者の力、そして、川崎、寿の仲間、支援の力を総結集させて力一杯やり切ったぞ。

最も虐げられ、過酷な運命を強いられている無権利状態の俺ら野宿労働者、日雇労働者、下層労働者が、労働者の権利を掲げ、自らの力で立ち上がったんだ。このことにこそ、今日の俺らの

5.1メーデー 全都野宿労働者統一メーデーとして、95年より始まった行動。大久保公園（その後柏木公園）から都庁へ向けたデモを行なう。野宿者を中心とした唯一のメーデー。

闘いの最大の意義がある。

メーデーこそ、国境を越えた労働者の団結した力を敵に見せつける日だ。俺らの赤旗は、全国、そして全世界の虐げられてきた労働者のたたかいに連帯し、共に、俺ら労働者を野宿や過酷な生活へと追いやっていっている奴等どもにもやり返して行く決意の赤旗だ。

俺らは、全国の虐げられた仲間と共に、俺らの権利を勝ち取っていくまでたたかていく。

仲間たち！ この団結した力で突き進もう！ 追いだしを金輪際一切中止させ、社会に俺たち野宿労働者の生きる権利を認めさせ、働ける者には仕事と住居を保障させ、働けない仲間、病気の仲間にはまともな福祉を適用させよう。

俺たちをコキ使い、虫ケラのように扱ってきたツケを今こそ払ってもらおう。

そのために、俺たちは東京都との団体交渉を要求している。俺たちは事務折衝、署名活動を5月も連続して取り組みながら、東京都を社会的に追いつめ、必ずや東京都と俺ら野宿労働者との団体交渉を実現してやる。俺らの団結した力で、東京都の姿勢を絶対に変えてやるぞ。

仲間たち！ 俺たちの団結した力をこの連休中研ぎ澄まそう。明日の福祉行動、そして、4日から7日までの連続炊き出しに仲間の力を集中させよう。そして、連休明けのたたかいに邁進しよう！

大型連休に突入しても、俺たちにとっては、仕事もなく、おまけに役所が閉まると、踏んだり蹴ったりの連休だ。新宿福祉は越年期に引き続いて、俺たちを再び見殺しにしようとしている。

先週の武山課長との「交渉」でカンパン2個の臨時支給を勝ち取ったとは言え、厳しい状態には変わりはない。また、この時期は、多くの仲間が飯場から出され帰ってくる時期でもある。昨年は5月に仲間内の「殺人事件」が発生した。仲間の数が増えると同時に、いろんなトラブルが発生する。野宿状態が長びくだけでなく、先の展望すら見えない中、みな苛立つてささいな事でも喧嘩の種になる。

東京都の連中は俺たちの状態について「認識している」だから「話を聞く必要はない」と言い、福祉の武山課長も「連休は特に厳しい時期だとは思っていない」と発言しているが、奴等は本当に俺らのこの状態に関して理解しているのか？

新宿福祉においては、俺たちへの連休対策は何一つない。

ならば、俺たちは俺たちの力で生き抜いていこうじゃないか！ しかし、病気の仲間、高齢の仲間でもう野宿はきついと思っている仲間は別だ。福祉に連休前だろうが、連休後だろうが、病院に入院させる、ドヤで通院させるなどの対応をキツチリと取ってもらおう。窓口が混んでいるからといって、いい加減な対応をするなよ。糖尿からくる足のしびれを、春山外科ではシップ薬を渡して、腰痛と診断するなんていうとんでもないケースすらこの間、発覚してる。俺たちの命がかかっているんだ。ヤブ医者送りは止めてもらうぞ。俺たちは人間らしい治療と、人間らしい療養方法を求めている。業務が忙しいのなら、職員をどんどん増やせ。窓口サービスの低下を俺らは許さんぞ。

仲間たち！ 明日は福祉行動だ。これを逃すと1週間、病院には行けなくなってしまう。体調

の悪い仲間、こぞって、明日の福祉行動に参加しよう。朝9時インフォメに集まれ。